八王子市立第三・第四・第十・大和田小学校

放課後の子ども教室　囲碁教室だより

75 号　2022 年 12 月

編集　成田　滋　shigerunarita@gmail.com

ブログ　https://naritas.jp/wp1/

八王子囲碁連盟　https://hachigoren.com

薔薇

◆12 月の放課後子ども囲碁教室のお知らせ

◆ 第三小学校：12 月 6 日、13 日、20 日　毎週火曜日 2 時 30 分～　四階 家庭科室
◆第四小学校：12 月 5 日、12 日、19 日　毎週月曜日 2 時 30 分～　三階 ひらめき教室
◆ 第十小学校：12 月 2 日、9 日、16 日　毎週金曜日 2 時 30 分　一階 家庭科室
◆ 大和田小学校：12 月 7 日、14 日、21 日　毎週水曜日 2 時 30 分　二階 図書室

■教室の話題

「一雨一度」。一雨毎に一度気温が下がるという言葉です。昭和 19 年 11 月に「海に出て木枯らし帰るところなし」と読んだのは俳人山口誓子です。太平洋戦争は敗戦が濃厚になり、旧日本軍は特攻とか回天といった無謀な作戦を始めます。出征して二度と帰ることのない若者の命を謳ったのがこの句といわれます。開戦の日、12 月 8 日が近づきました。

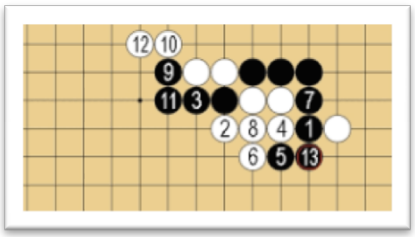
第一話

教室のいくつかの話題を披露しましょう。「先生、僕の名前覚えている？」という質問をよく投げかけてきます。この質問を予想して子どもが教室にやってくると、出席簿とシールを持って、子どもの名前を確認することにしています。一週に一度、あるいは時々会う子どもの名前はなかなか覚えられません。子どもが広げるドリルの表紙にある名前をちらりと見て、「絵里奈、元気かい！」と声をかけると、「やっと名前を覚えてくれたね」といって嬉しそうな表情を見せます。私は教室では、子どもの名前を呼び捨てします。時には、「呼び捨ては駄目よ」と子どもにいわれますが、「母さんや父さんは、呼び捨てするやろ、」といって反撃します。親しみを込めて呼び捨てにするのがよいのです。「さんづけ」はお客さん扱いしているような気がします。

第二話

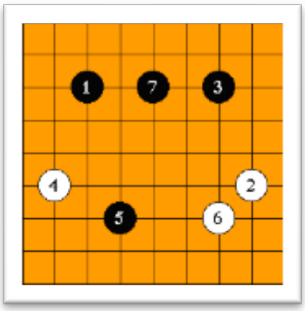
いよいよ碁の勉強です。まずは挨拶から始めます。両手は両膝の上、背筋を伸ばすなど、姿勢に気をつけさせます。打つ手が決まったら石をとって盤上に置くことも言い含めます。対戦のとき「勝った, , 」といって大声を出すのをたしなめます。負けた相手を思いやること、慮ることを口を酸っぱくして言います。

石を盤上に置くことを着手(ちゃくしゅ)といいます。着手が素晴らしい時は「100 点！」といって褒め、なぜ 100 点かを説明します。例えば、「ここはアタリだからつなぐのが正しい」、「石を切られないようにしたから 100 点」といった按配です。 50 点という時もあります。「死んでいる石をとる必要はないんだよ」という場面です。



第三話

子ども達が聞いて喜ぶ囲碁の言葉に「団子石」があります。団子のように石が固まった状態のことです。石の働きが全くないのが団子石です。右の図では 2,4,6,8 の白石が固まっていて団子状態となっています。白が苦戦していることを示しています。その下の図では黒石も白石もノビノビと働いているようです。子ども達には、「先生はみたらし団子は大好きだ、、」といって笑わせることも忘れません。



第四話

子ども達は五目並べ好きです。先に縦、横、45 度の斜めに 5 個の石を並べた方が勝ちです。碁は打ってはいけない着手禁止点を除いて石をどこに置いてもよいので、子ども達には難しいようです。その点五目並べは着手禁止がなく分かりやすいといえます。碁の勉強が終わると五目並べで競わせて緊張を解いてやります。碁は勝っても五目並べは負ける子どもがいます。勝ったり負けたりで子どもの自尊心にバランスがとれるように配慮します。　というわけでこの号はお開きとします。